



愛知・名古屋2026大会ボランティアに関する最新情報などを月1~2回お届けします！
大会のことをより理解し、皆様同士のつながりが深まるきっかけになれば嬉しいです。

発行日：2025年10月16日 発行：愛知・名古屋2026大会ボランティア事務局

Topic
01

今月のピックアップ情報！

学生ボランティア募集、残り16日！大会をともに創る仲間へ

10月31日(金)の学生ボランティア募集締切まで、いよいよ残り16日となりました。一人でも多くの学生に参加してもらえよう、事務局一丸となってPR活動を進めています。まだ「2026年、愛知・名古屋でアジア最大級のスポーツ大会が開催される」ということを知らない学生も多く、まずは大会を知ってもらうことからスタート。昨年の募集開始時からは愛知や静岡や東京の大学で学内説明会や授業内での紹介の機会をいただき、多くの学生と直接触れ合う時間を大切にしてきました。学園祭や地域イベントなど、学生が集まる場にも積極的に足を運び、大会の規模感、

ボランティア活動の魅力を伝えています。学生にとって、この大会での経験が「かけがえのない特別な時間」となり、自分らしく輝ける瞬間を迎えられるよう、事務局としても全力でサポートしていきます。



名城大学ドーム前キャンパス学内説明会



NAGOYA学生EXPOブース出展

Topic
02

写真で振り返る
1年前イベント



今月5日にエントリオで開催された「大会1年前イベント」は、ボランティアの皆さまのお力添えにより、大変盛況のうちに終了しました！

写真は当日の会場の風景と、フォトスポットブースで活動された皆様です！

Topic
03

ボランティアインタビュー
永野 響さん

「支えることで、人はもっと強くなれる」

「本当は、あのリレーの決勝を走るはずだったんです。でも、病気が再発してしまって。」

静かに、けれど真っ直ぐな目でそう語ってくれたのは、陸上競技一筋14年、大学では短距離ブロックの主将を務めた永野 響さん。

大学4年の春、難病・潰瘍性大腸炎を発症。東海大会の大舞台を目前にして、彼は仲間に初めて病気のことを打ち明けました。

「それでもチームは優勝してくれて。『人って、支えられることでこんなにも強くなれるんだ』って、心から感じました。」この経験が、永野さんの人生を大きく変えます。競技から一歩引き、今は大学院でスポーツ心理学を学びながら、「人格形成におけるスポーツの役割」を研究中です。

そして、もうひとつの挑戦—愛知・名古屋2026大会のボランティアに名乗りを上げました。

スポーツの現場を支える事が、誰かの希望になり得る。その信念のもと、障害者スポーツの体験会や市民祭のボランティアにも積極的に参加中です。

「この大会には、病気や障害を持ちながら参加される方も多くなると思います。そういう仲間へ寄り添って、一緒に成功体験をつくっていききたい。」「一人ひとりの力が、誰かの心に届く大会になるはず。ただ関わるのではなく、「思いを持って」参加したいと思っています。その一歩が、大きな未来につながっていくと信じています。」競技人生で培った強さと、誰かを想う優しさ。その両方を胸に、永野さんは愛知・名古屋2026大会で支える者として新たなスタートを切ろうとしています。

